

エコアクション21

環境経営レポート



環境活動期間：平成30年10月～令和1年9月

環境活動レポート作成日：令和1年11月12日

八千代田精密株式会社

I. 会社概要

当社は、航空宇宙機器部品加工を通して、品質・コスト・納期を確立し、且つ地球環境保全においてエコアクション21環境経営システムの対象範囲は、第二工場を含め全組織全活動とし、環境に配慮した製品作りに取り組んでいます。

①社名 八千代田精密株式会社

②創立 平成12年3月21日

③所在地・TEL

本社工場 〒992-0003

山形県米沢市窪田町字東小境1310-2

TEL 0238-37-2723 FAX 0238-37-2812

第二工場 〒992-0004

山形県米沢市窪田町小瀬字鎌倉999-1

TEL 0238-40-1126

E-mail info-yachiyodaseimitsu@yachiyoda.co.jp

URL <http://www.yachiyoda.co.jp>

④役員 取締役会長 栗木 和彦
代表取締役社長 樋口 伸明

⑤資本金 2000万円

⑥従業員 45名

⑦敷地面積 本社工場 3,517㎡
第二工場 1,341㎡

⑧環境管理責任者 井口 翔（総務）

⑨営業品目

航空宇宙機器部品加工、風洞実験模型製作、精密機械部品加工、治工具設計・加工

⑩主要取引先

株式会社 SUBARU 航空宇宙カンパニー、関東航空計器株式会社

丸家工業株式会社（川崎重工業株式会社、株式会社 IHI、株式会社 IHI エアロスペース）

輸送機工業株式会社

I-2. 認証・登録範囲

組織：全組織を対象とする。(本工場 第2工場)

活動：航空機体の構造部品、ロケット飛翔体の構造部品、一般機械部品の製造

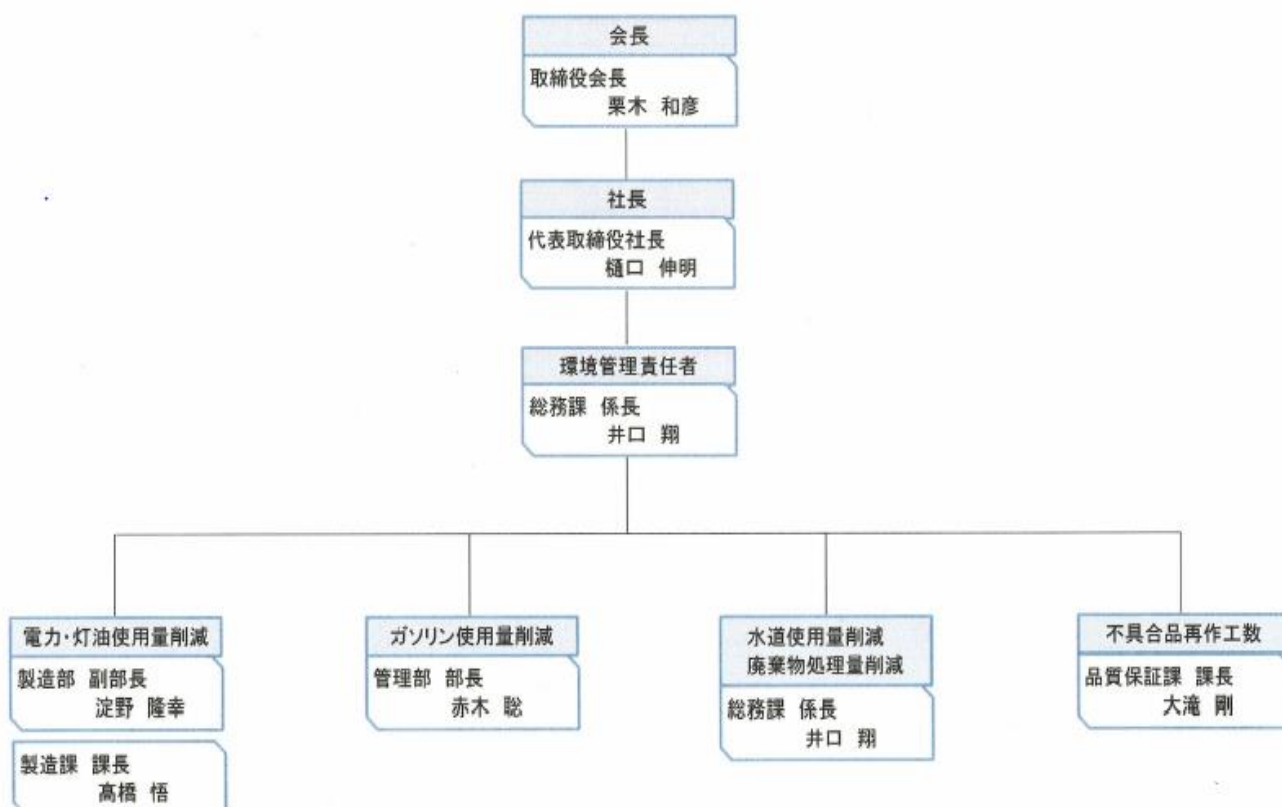
I-3. 実施体制

19.10.1

承認

樋口

八千代田精密株式会社 環境管理組織図



環境経営方針

<基本理念>

八千代田精密株式会社は、省エネ、省資源を意識した企業活動において資源を大切にし、次世代へ安心して自然環境を引き継ぐ為「成せば成る」の精神で積極的に環境保全に努めます。

<基本方針>

1. 生産活動で発生する二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び水使用量の削減を継続的に実施し、製品の効率生産に努め、目標を定めて環境負荷の低減に貢献します。
2. 環境関連の法規制等を遵守し、環境保全に努めます。
3. 全従業員にこの環境経営方針及び省エネ、省資源の認識を周知徹底し、継続的改善を実施して環境経営活動を推進します。
4. この環境経営方針及び環境経営レポートは広く内外に公表します。

令和1年10月1日

八千代田精密株式会社

代表取締役社長 樋口 伸明

II. 環境経営目標（単年度目標及び中長期目標）

活動項目	基準値	2018年度目標	2019年度目標
電力使用量 (kWh)	869,314	基準値未満	基準値1%削減
灯油使用量 (L)	22,185	基準値50%削減	基準値60%削減
ガソリン使用量 (L)	2,098	基準値5%削減	基準値10%削減
水道使用量 (m ³)	545	基準値4%削減	基準値5%削減
廃棄物処理量 (Kg)	2,500	40%削減	基準値50%削減
グリーン購入 (%)	63.5	67.0	活動項目より削除
有償材支給額 (円)	2,448,431	979,372	不具合品再作工数削減に変更
二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	533,930	506,831	496,162

*二酸化炭素排出量は、電力・灯油・ガソリンの使用量合計で換算。

*電力の排出係数は東北電力（株）平成28年度実績排出係数0.545Kg-CO₂を使用。

*基準値は2016年度実績値とする。

III. 環境経営計画

活動項目	責任者	活動計画
電力使用量削減	淀野副部長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未使用時の電気消灯の徹底（工場内、各事務所） 2. 設備のアイドルングストップ（必要以上にアイドルングしない。） 3. 空調温度管理の徹底。 4. コンプレッサーの徹底管理。 5. 水銀灯から蛍光灯・LEDへの切り替え検討。 6. デマンドコントロールの監視。 7. リフレクティックスの採用増加の検討
灯油使用量削減	淀野副部長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空調温度管理の徹底。 2. ボイラー設備の見直し。
ガソリン使用量削減	赤木部長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全運転の励行。 2. エコドライブ10カ条の遵守。
水道使用量削減	井口係長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 節水の意識付けの徹底。 2. 蛇口調整により最大流量の設定。
廃棄物処理量削減	井口係長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3R（Reduce・Reuse・Recycle）の実践管理の徹底。
有償材支給額削減	大滝課長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図面、スペック、材料、TOS、作業手順書、設備、加工プログラム等の理解。 2. 加工計画の励行と検査の実施。 3. JISQ9100マネジメントシステムの理解と運用の徹底。

IV. 2018年度 環境経営目標の実績

活動項目	2018年度目標値	2018年度実績値	目標対比	評価
電力使用量 (kWh)	869,314	1,005,613	+136,299	×
灯油使用量 (L)	11,408	10,894	-514	○
ガソリン使用量 (L)	1,993	2,297	+304	×
水道使用量 (m ³)	529	508	-21	○
廃棄物処理量 (Kg)	1,500	600	-900	○
グリーン購入率 (%)	67.0	67.3	+0.3	○
有償材支給額 (円)	979,372	936,580	-42,792	○
計測項目	—	—	—	—
軽油使用量 (L)	—	159	—	—
LPG ガス使用量 (Kg)	—	47	—	—
二酸化炭素総排出量 (Kg-CO ₂)	506,831	581,101	+74,270	×

V. 2018年度 環境経営の取組結果とその評価

総括

- ・本工場マシニングセンタ1台から火災が発生、大事には至らなかったが設備稼働不能となり、生産活動に大きな影響を受けた。緊急事態の初期活動はスムーズに推移したと思うが、今後もあらゆる場面を想定した訓練を考慮していきたい。
- ・当社の生産活動は、電力エネルギーに依存するところが大きく、仕事量及び設備稼働時間によりその使用量が大きく変化する。現に、本年度は第二工場に増設したマシニングセンタが本格稼働した年でもあった。又、昨今の状況から、製品完成までに多くのエネルギーを要する初回製品の受注が多くエネルギー使用増加の要因になったと思う。
- ・冷暖房の空調を電気式エアコンと従来の灯油式エアコンの併用も可能にしたが、今期夏場の運転は電気エアコンのみとなった。
- ・製品輸送のシステム確立により、発注先への自社による製品のトラック輸送は無くなった。このためトラックの稼働も激減したため、排気量をダウンしたトラックに切替えた。軽油使用量も微量なため、今後はガソリン使用車3台についてその使用量を管理したい。
- ・有償支給額は不具合製品発生による修復費用としての材料費を計上しているが、完結に至るまで様々なコストが加算され、これをどう扱うか今後の課題にしたい。

・環境経営活動項目の取組と評価

活動項目	活動計画と評価
電力使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・第二工場新設備増設本格稼働。それに伴い電力使用量も増加した。 ・第二工場照明はLED12基使用。 ・超薄型高遮熱材（リフレティックス）の設置効果は認められる。 ・本工場のデマンドコントロールの監視は徹底された。 ・設備のアイドルストップは一部不徹底が見受けられる。 ・コンプレッサの減圧調整チェックは継続して実施されている。 ・夏期の太陽熱遮蔽ネット設置。効果を感じ取っている。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED照明への切り替え

活動項目	活動計画と評価
灯油使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・今夏の熱暑対応に課題を残した。 ・リフレティックス仕様のお陰で断熱効果が確認できた。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気式エアコンのみの温度管理
ガソリン使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・納品運輸システムの変更により、自社による配送が無くなった。変更は輸送業務の効率化のためである。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場間の効率輸送
水道使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・第二工場が井戸水使用から水道水使用に切り替えた為、増加につながった。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水意識の向上
廃棄物処理量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・交換回数を減らし廃油排出を削減した。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3R製品の選択
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・購入するグリーン製品は限られており、正直、限度を感じている。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営目標からは外すが活動は継続する。
有償材支給額削減	<ul style="list-style-type: none"> ・JISQ9100マネジメントシステムの浸透を図り、特にヒューマンエラーによる加工ミスの発生防止策を検討中である。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料に価格差があるため支給額の評価だけでなく、完成に至るまでのコストについても検討したい。

二酸化炭素排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> 加工製造業のコストの大半はエネルギーの消費であることから、いかに生産効率を上げるかが勝負どころとなる。設備増設に伴いエネルギー使用量は増加したが、使用量予測が未知数であったため目標設定が困難であった。 <p>次年度取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各生産プロセスの生産効率向上の見直し。
------------	---

VI. 環境経営活動項目の年間実績推移

活動項目	2016年度	2017年度	2018年度
電力使用量 (kWh)	869,314	993,789	1,005,613
灯油使用量 (L)	22,185	15,169	10,894
ガソリン使用量 (L)	1,274	2,098	2,297
水道使用量 (m ³)	545	582	508
廃棄物処理量 (Kg)	2,500	1,200	600
グリーン購入率 (%)	63.4	54.6	67.3
有償材支給額 (円)	2,448,431	1,870,420	936,580
計測項目	—	—	—
軽油使用量 (L)	5,733	517	159
LPG ガス使用量 (Kg)	62	60	47
二酸化炭素総排出量 (Kg-CO ₂)	547,250	587,046	581,101

VII. 2020年度以降の中長期環境目標

2022年度を中長期の最終年度として以下の目標を設定します。

活動項目	2022年度までの削減目標 (暫定)	
電力使用量 (kWh)	2019年度実績値比	3%削減
灯油使用量 (L)	2019年度実績値比	5%削減
ガソリン使用量 (L)	2019年度実績値比	10%削減
水道使用量 (m ³)	2019年度実績値比	3%削減
廃棄物処理量 (Kg)	2019年度実績値比	5%削減
不具合品再作工数	2019年度実績値集計後、設定	
二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	2019年度実績値比	3%削減

VIII. 代表者による全体の評価と見直しの結果

令和1年年11月6日 実施

参加者：樋口社長、井口環境管理責任者、赤木部長

●報告事項

- ・環境目標の達成状況
- ・その他取組状況（緊急事態の訓練結果、環境関連法規等のチェック結果、苦情・要望の有無、環境教育等）

●社長からの評価コメント

- ・環境経営目標の基準値設定後、経営活動にも大きな変化があったが、これを見越した目標と実績を想定して結果を評価したらどうか。そして目標と実績の「見える化」を図ってほしい。
- ・これまで実施した環境改善の投資効果をまとめ、全員に公表し、意見を聞いたらどうか。

IX. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当社は、令和1年年10月18日環境関連法規制等の遵守状況を当社制定のチェック表に基づき厳正にチェックを行い、違反のないことを確認いたしました。今後とも法規制等の内容を理解して遵守に努めたいと思います。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。又、訴訟等は過去において一切ありません。

当社に関連する主な法規等
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
浄化槽法
フロン排出抑制法
米沢市火災予防条例